

「東郷学園義務教育学校の東郷土人形伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

4年生 58人

3 日時・場所

(1) 作成の日時・場所

令和2年5月～7月 ふるさと・コミュニケーション科（本校技術室）

(2) 発表の日時・場所

完成後、東郷学園義務教育学校にて展示

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

東郷土人形（とうごうつちにんぎょう）

(2) 由来

戸木田伊助さん等が東郷でとれた粘土を使って、明治の初め頃から作り始めた。人形作りが盛んな頃は、東郷町舟倉に、人形専門店が2～3軒あり、2月には人形市が開かれていた。作品としては、菅原道真公、庶民のささやかな安全や幸福、五穀豊穡や商売繁盛を願う恵比寿様や大黒様、縁起物・節句物・歌舞伎役者等、およそ50種類の人形が作られていた。

(3) 作り方等

空気を抜き、適度に柔らかい粘土を作る。粘土を二つに分けた型枠に入れ、指で押し型にしっかりとつける。同じ方法で一方の型に粘土をつける。二つの型枠から外した粘土を合わせる。乾燥させ、胡粉をぬり、絵付けを行い完成となる。

5 保存会や地域との連携の具体

東郷土人形の最後の人形師であった榎治右衛門氏が昭和4年に亡くなってから、途絶えたと言われている。東郷町文化財保護審議会委員長に山口忠正氏が就任し、東郷土人形が消え去ることを危惧し、有志と共に保存活動を始めた。現在は、赤坂安徳氏を中心に保存活動に取り組んでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

4年生のふるさと・コミュニケーション科「東郷地域の伝統芸能の継承」の一つとして位置付け、制作活動に取り組んでいる。完成した作品は、3月に行われる「おのぶっ祭」に展示し、参加した方々に鑑賞していただいている。制作活動では、現存する東郷土人形の型枠等の道具を使い、可能な限り当時に近い作り方で指導いただいている。児

童は数種類の型枠の中から好きな型を選択し、自由に彩色しながら、楽しく制作に取り組んでいる。

東郷地域では、希望する保護者や児童生徒を対象に公民館講座の一環として、「土人形作り」を開設し、地域の方々の興味・関心を高めることに努めている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【型枠に粘土をつめる過程】



【人形に絵付けをする過程】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童・生徒】

- 私は猿を作ったが、とても難しかった。でも、できあがるととてもうれしかった。
- 土人形はこんなにたくさんの種類があることと絵の具に「にかわ」を混ぜることなど初めて知った。

【教員】

- 子どもたちは、東郷土人形への興味を高めて、文化の継承に努めてほしい。

【指導者の方】

- 子どもたちが、東郷土人形を実際に作ることで、文化の伝承の担い手になってもらいたい。
- 東郷土人形は、東郷公民館に常設展示しているので、ぜひ見ていただきたい。
- 公民館講座「東郷土人形」にたくさんの方々に参加していただきたい。